

## 「命の水」を守る ～興津川流域での市民活動～

興津川保全市民会議

### はじめに

静岡県のほぼ中央に位置し静岡市清水区を流下する興津川は、本川の流路延長21.7km、流域面積120.0km<sup>2</sup>の二級河川です。流域の約68%が森林、農地は約12%、その大部分は茶畑とみかん畑となっています。また、興津川は東日本で最も早く鮎の解禁日を迎える鮎釣りの川としても知られています。さらに、市街地に近接していることから、市民のほとんどが一度は興津川で水泳やバーベキューなどを楽しんだ経験があるといわれるほど市民に親しまれている河川です。

### 市民の命の水の興津川

この興津川の流量は、年間平均では、690,000m<sup>3</sup>／日といわれており、その表流水のうち100,000～120,000m<sup>3</sup>を旧清水市（現在の静岡市清水区）のほぼ全人口24万人の水道水として活用してきました。しかし、春から秋にかけては豊かに流れる興津川の水も、12月から3月にかけての渇水期には、水道水として取水してしまうため、河口近くでは、表流水が無くなり海には達しない状況も発生しています。つまり、山の保水力の低下は、市民の命の水である水道水不足に直結する状況にあります。

### 興津川流域にゴルフ場建設計画が発生

今から25年ほど前、市民の命の水を育む興津川流域の山にゴルフ場建設の計画が多数持ち上がりました。その計画は、流域の急峻な山の尾根近くの茶畑などの緩傾斜地を大規模に造成してゴルフ場にしようとするものでした。ゴルフ場ができると、100ha規模で森林や茶園などの緑地が芝生に変わり、山の保水力が失われてしまいます。また、大量の農薬が散布され、それがいずれ市民の水道水源である興津川に流れ込み、命の水である興津川の水道水源が汚染されてしまい清流興津川のイメージも失われてしまうといくつもの不安の声が上がりました。

### 行政が興津川保全条例を定める

そのような危機感から、旧清水市では興津川の自然環境を守る為の保全条例を定めました。その条例は、興津川流域が市民の水道水源地域であることから、「開発で失われた森林面積と同等の森林を別途確保すること」という条件を付けたものでした。

### 市民全体で守る活動組織「興津川保全市民会議」発足へ

保全条例は、ゴルフ場を禁止するものではなく、開発抑制のものであったため、この条件を満たす開発が発生しないとも限りませんでした。そこで、行政のみでなく、水道を使用する市民と企業が一緒になり、市民の命の水である興津川の水を守る活動にしていくことが必要であるとして「興津川保全市民会議」を発足させました。興津川保全市民会議の構成メンバーは、会長が企業の代表である商工会議所の会頭、副会長が市民の代表である自治会連合会会長が就任し、以下、市内の主要な組織である女性の会、ホテル旅館組合、消費者グループ、内水面漁業協同組合、森林組合などが役員となりました。

そして、名前ばかりの組織となつてはいけないと、その下に具体的に活動する組織として、役員が所属する団体や森づくり川づくりなどの市民活動組織及び有志の市民による「興津川保全市民会議・事業委員会」を設けました。事務局は、旧清水市土地対策課内におくことにしました。

この事業委員会の基本は、市民が企画し、市民が中心となって活動することです。行政は、その活動を支援、協力するという協働の精神によりスタートしました。

### 興津川保全基金の募金活動

水道水源を守る活動は、息長く続ける必要があります。そのため、自主財源を持つことが必要です。そこで、興津川保全活動のための基金を募金することにしました。市内の企業に対して募金活動を進めた結果、1企業

から1億円、1団体からは100万円など、多くの募金が集まりました。そして、自治会連合会会長をはじめ市民一人ひとりが会員であるとして、各地区の自治会の集会に出向き、興津川保全の活動の趣旨を説明し、一人100円でも良いのでと募金についての協力をお願いしました。

その他、募金箱を作り、市内の関係施設に置くとともに、市民活動の会からも募金を頂きました。そして、旧清水市から1億円の基金を拠出がありました。その結果現在では、総額2億5千万円となっています。募金を始めた頃の利子であれば、その果実により相応の活動資金が充当できる予定でした。

しかし、その後の利子の低下により、当初の目論見ほどに資金を活用した活動は難しくなりました。

そこで、事業委員会では、潤沢とは言えませんが、基金から得られる利子の還元による市からの助成金を活動資金として、事業委員及び関係ボランティアの協力を得て、20年間の活動を続けてきました。



興津川保全市民会議のPR、募金活動の展開。清水七夕会場で、川の日と市民会議のPR

## 活動の目標

啓発活動を継続するため、事業委員会では活動の目的を次のように考えています。

- ・第1の目的は、市民の飲み水である興津川の清流を、ゴルフ場などの乱開発から市民みんなで守る意識を持ち続けるために、継続的に啓発活動を続けること。(現在まで、興津川流域にゴルフ場開発はありません)
- ・第2の目的は、市民生活の身近にあり、幼い頃から誰にも親しまれている興津川に、親子で近づき、水辺や川の中に入り楽しく遊ぶことや水生生物と水質について学ぶこと等を通じて、興津川を愛する人を育てること。

・第3の目的は、森林が「緑のダム」として水を蓄え、水源としての役割を果たしている仕組みを学ぶとともに、自らも植林活動を通して山を守る意識と人づくりに取り組むこと。

## ●年間の活動と事業委員会

市民会議の活動は、実行部隊である事業委員会が、毎月その準備や活動内容について話し合いを行い、実施計画を作成しています。事業当日は事業委員のほか多くのボランティアスタッフが一丸となって事業を支えています。

年間活動予定	4月	第1回	市民の森づくり
	5月	役員会・総会・講演会	
	7月	第2回	市民の森づくり 川遊び・鮎釣りセミナー
	8月	川のセミナー	
	9月	興津川クリーン作戦	
	11月	視察研修	森林探検隊
	2月	第3回	市民の森づくり
	3月	やませみ通信発行	
	毎月	事業委員会	

## 「興津川クリーン作戦」・12トン回収したごみが850kgまで減少

川のゴミを拾う「興津川クリーン作戦」では、平成7年から約20年間にわたり、一般市民、企業、団体、行政など毎年約1,000名以上の参加者を得て、興津川の上流から下流までの広範囲に及ぶ清掃活動を行ってきました。

第3回のクリーン作戦では、風呂桶、洗濯機、タイヤなど、不燃ゴミ4トン、可燃ゴミ8トンの合計12トンにもなるゴミが集まりました。その後、約20年続けた結果、今ではクリーン作戦会場に着くと「河原にごみが見当たらないね」と声が出るほどになり、平成26年では850kgと1トンを切るまでになりました。



クリーン作戦を始めた頃には、風呂おけ、テレビなど大きな不燃ゴミが沢山回収された



第一次市民の森づくりは山間地の急傾斜地に植林を始めた



近年のクリーン作戦では、河原にゴミが殆ど見当たらなくなりました。



第2次、新市民の森づくり

### 山の植林活動「市民の森づくり」

「山が荒れれば川や海も荒れる」といわれるように、興津川流域の豊かな山林は市民生活の安全・安心に非常に大きな恩恵を与えています。

「市民の森づくり」では、山の管理、専門家であるS-GIT（みどり情報局静岡）の指導のもと、伐採後に放置された山を削り上げ、植林と育成体験の場として、植林・下草刈り、枝打ち、間伐作業等を継続的に行っています。自分で選んだ苗木を植林し、名札を付け、成長を楽しみながら継続して活動に参加してもらうようになっています。なかには、植えた樹木が鹿に食べられてしまかなか成長できないこともあります。このような現実も体験学習としています。単なる作業だけに終わらず、間伐した木を使用してのウッドクラフトや、滝、花見など季節ごとの興津川を楽しんでもらう等、季節に合わせた活動を心がけています。



森林探検隊は、山の中を駆け巡ります。木の橋を渡り、急坂を登り、ロープスライダーで、谷を渡ります

## 興津川で楽しく体験「川遊び・鮎釣りセミナー」

川に関する活動として、小学生以上の市民を対象に、清流の興津川で鮎の友釣り体験をする「川遊び・鮎釣りセミナー」を実施しています。毎回、100名以上の応募があり、抽選となっている人気プログラムです。「鮎釣りセミナー」では、鮎の生態や習性についての説明の後、興津川内水面漁業協同組合の組合員である鮎釣り名人に講師となってもらい、家族単位で鮎の友釣りに挑戦します。素人にはなかなか難しい友釣りですが、名人の指導により、多くの家族が鮎を釣り上げます。午後は、天然の鮎の塩焼きを食べた後、清流の興津川で水泳や魚釣りなどして楽しく過ごします。この体験により、子どもたちは、飲み水となっている興津川の水の大切さ、水を守ることの大切さを体験します。



川遊び、鮎釣り体験

## 水生動物を採り川の水質を学ぶ「川のセミナー」

「川のセミナー」として、東海大学の北野研究室の協力により、興津川の中流・上流の水生生物を採取し川の生物の種類と水質の関係を学ぶ講座を開いています。参加者は、水生生物を採取する網を持ち川に入って採取します。最初は、ほとんど採ることのできない子どもたちもいますが、研究室の学生の指導により徐々に採取できるようになります。採取した生物は、教室に持ち帰り、種類を調べ、顕微鏡でより詳細な姿を観察します。これまで一般市民を対象として行ってきましたが、近年は興津川流域の小学校を対象に、生徒たちが実際に川の中に入り水生昆虫や魚を捕って観察して学ぶ体験学習も行っています。この事業により、地元の小学生が身近に流れる興津川のことやその中に棲む生物について知り、あらためて興津川の大切さやすばらしさを見直す機会となっています。



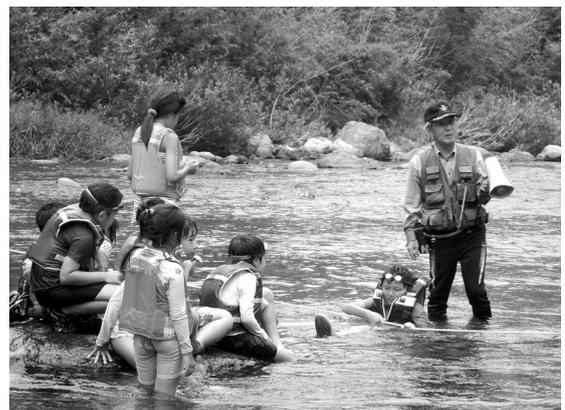
川のセミナーでは、下流と中流域で水生生物を採取し、教室に戻ってどのような生物が生息しているかを学習します



お昼は、太い竹を使った楽しい流しソーメンを楽しみます



午後は川遊びをして水に親しみます



川に取り残された人の救出作戦

常に楽しみを持って活動に参加できるように工夫をしている



竹の子掘り



囲炉裏で火起こし体験

## 興津川の情報発信

興津川保全市民会議の活動は、年間を通じて地元の新聞やラジオ、テレビなどで紹介され、市民会議の活動の趣旨の理解が深まると同時に、学校や地域住民の参加・協力も得られるようになってきています。

また、興津川のこと及び興津川保全市民会議の活動について会報やパンフレットなどにより、会員及び市民に対して情報発信を行っています。

### ●「やませみ通信」の発行は、37号

市民会議の活動の情報発信と会員とのコミュニケーションを図るため、機関誌「やませみ通信」を年に一回発行しており、平成26年度には第37号を発行しました。

### ●興津川及び流域を知る「興津川への誘い」

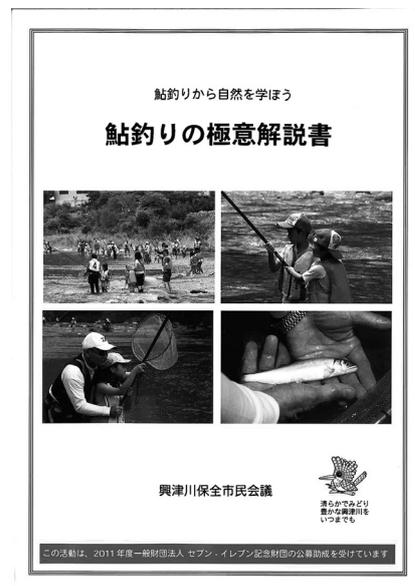
平成17年には設立10周年記念事業として、興津川を学ぶことができる教本『興津川へのいざない』を作成し配布しました。

### ●興津川流域の「蝶」図鑑

興津川保全市民会議の顧問である東海大学名誉教授永井先生が自ら川に通い詰め採取した「蝶」の図鑑を作成しました。その蝶の種類から地球温暖化が進行していることを学ぶことができました。

### ●鮎釣りから自然を学ぶ「鮎釣りの極意解説書」

鮎釣り教室では、鮎の習性を利用した「鮎の友釣り」について解説をした「鮎釣りの極意解説書」を作成し、参加者に配付しました。この本では、鮎の1年間を通じた生態、餌と縄張り、その習性を利用した「鮎の友釣り」の方法などを紹介しています。



興津川の情報発信を「やませみ通信」「興津川へのいざない」「鮎釣りの極意書」などで行っています。

## 興津川への親しみ活動

静岡市内の川について関心を持ち、その良さをアピールし、川を大切にしようという心を育てる活動として、「清流のうた」「清流俳句」などを作成してきました。

### ●ふるさとの川を歌う「清流のうた」の作成

市民から静岡市の川についての歌詞を公募し、市内の音楽科の先生に作曲をお願いして「清流のうた」を作成し、市内の音楽家の片平さんをはじめ、音楽団体に歌って頂き、川に親しんで頂いています。

### ●清流俳句

静岡市内を流れる興津川、安倍川、藁科川等の清流の川についての俳句を公募して優秀な作品を選出しました。

## 今後の取組課題

これまで、20年間の活動を通じて様々な啓発活動を行って来ましたが、その活動を今後とも継続することが重要になっています。

そのため、今後は、3つの活動を通じて更にその後継者を育成していきたいと考えています。

### 1 新たな市民参加の森づくり

第1期の市民の森は、急傾斜の山でしたが、植林した苗木の芽を鹿に食べられながらも緑の山として育っています。今後は、新たな場所において、新市民の森づくりに取り組めます。その際には市民や企業にできる限り継続的に関わってもらい、10年間の森の成長に汗を流して頂くとともに、その本人が森づくりの後継者に育ってほしいと思います。

### 2 障害の無い、生物にやさしい川づくり

この20年間の活動を通じて、興津川には多様な生物が生息していることを学んできました。しかし、一方で、興津川にある取水堰は、鮎の遡上のための対策は取られているものの十分に機能せず、非常に多くの鮎がその堰に遡上を阻まれていることが分かりました。この



今後の取組の1つとして、鮎の遡上を妨げている堰堤の改良、撤去に取り組めます

ような生物にとって障害となっている堰を改良し、遡上しやすい生物にとってやさしい川づくりに取り組んでいきたいと思っています。

### 3 美味しい静岡の水道水の再認識

静岡県には美味しい水道水がいくつかあります。柿田川の水道水、富士山麓の湧水の水道水、その水道水と肩を並べる興津川及び安倍川の水を使用した静岡市の水道水を市民がもっと見直し、大切にするような活動をこれからも続けます。

興津川を知っていただくためにも、新幹線で静岡駅に降り立ったら水道の水を飲み、そのおいしい水で入れた静岡のお茶を味わってみてください。

興津川保全市民会議